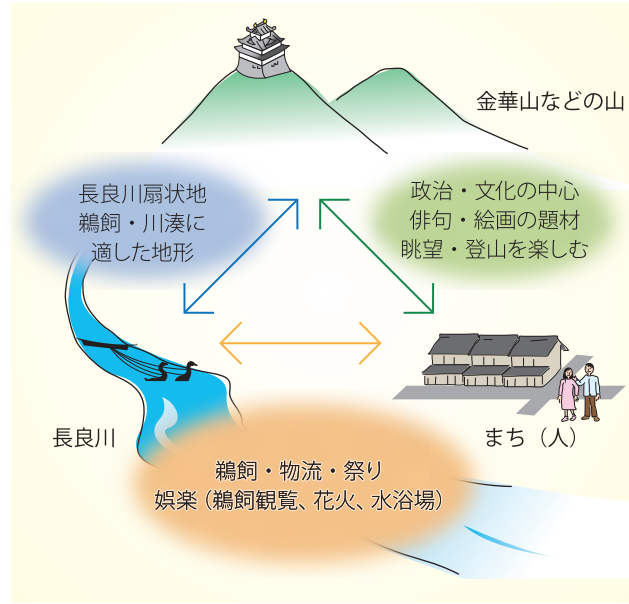


# ① 岐阜市の文化的景観

長良川は、岐阜市を横断するように東から西に流れ、また市のほぼ中心に金華山が位置します。その周囲の町の基盤は、斎藤道三公や織田信長公などの権力者により、戦国時代から江戸時代までにほぼ整備され、現代に継承されています。

人々は、古くから長良川を物流の軸、鶺鴒の舞台として、また金華山を政治の拠点として利用してきました。

この長良川と金華山、町と人々が一体となって形成してきた長良川流域の文化的景観は、「岐阜市の原風景」ということができます。



岐阜市の文化的景観のイメージ

## 選定地域の主な歴史

戦国時代	天文4年	1535	長良川が氾濫し、現在の長良川の流路ができる
	天文8年	1539	伊奈波神社が現在地に移転たとされる
	天文年間	1540頃	斎藤道三公、金華山に稲葉山城と城下町建設
	永禄10年 慶長5年	1567 1600	織田信長公が稲葉山城を攻略し、岐阜に改名 関ヶ原合戦の前哨戦で岐阜城落城
江戸時代	寛永13年	1636	長良川役所が早田村馬場から岐阜中河原へ移転
	元禄8年 天保3年	1695 1832	尾張藩が岐阜奉行所設置 岐阜大仏完成
	明治・大正時代	明治7年	1874
明治15年		1882	岐阜公園設置の認可
明治24年		1891	濃尾地震
明治43年		1910	岐阜城復興天守完成（昭和18年に焼失）
大正6年		1917	岐阜公園三重塔完成
昭和時代	昭和14年	1939	長良川の締め切り工事竣工
	昭和31年	1956	岐阜城復興天守再建
	昭和34年	1959	伊勢湾台風による水害
	昭和35年	1960	台風11・12号による水害
	昭和36年	1961	豪雨による水害
	昭和51年 昭和60年	1976 1985	台風17号による水害 長良川中流域が「名水百選」に選定
現代	平成8年	1996	長良川鶺鴒が「残したい日本の音風景100選」に選定
	平成9年	1997	岐阜城復興天守の大改修完了（市民による瓦運び）
	平成23年	2011	岐阜城跡が国の史跡となる
	平成26年	2014	「長良川中流域における岐阜の文化的景観」が国重要文化的景観に選定



## 地形

長良川は、日本でも屈指の水量と水質を誇る清流です。岐阜県北西部の白山山系周辺の山々を水源として、県下の多くの支流を束ねながら南流し伊勢湾に至ります。市域においては、美濃山地と濃尾平野の境界部分に長良川扇状地を形成しました。

金華山は美濃山地の南西端に位置するチャート層から成る山です。実際の標高は329mとそれほど高くありませんが、北側は長良川に接し、南側は大岩壁によって平野部に接して峻立していることから、標高以上に「高い山」に見えます。

岐阜市の文化的景観は長良川扇状地に立地し、鶺鴒屋地区と川原町地区は長良川の堤外地に、旧城下町地区は金華山西麓に形成された町です。



鶺鴒屋地区から見た金華山



## 文化的景観とは

文化的景観とは、地域の自然と日々の生活に根ざした身近な景観です。平成16年の文化財保護法の改正に伴い、新たな文化財として位置づけられ、国はその中でも特に重要なものを、「重要文化的景観」として選定します。

現在までに棚田などの農村、海沿いの漁師の町、都市の町並みなど、全国で43件が選定されています。

### 《日本各地の重要文化的景観》



長野県千曲市（農村の景観） 熊本県天草市（漁師町の景観） 京都府宇治市（都市の景観）

### 《岐阜市の重要文化的景観の概要》

選定名称：長良川中流域における岐阜の文化的景観  
 選定日：平成26年3月18日  
 選定面積：331.9ha  
 選定地区：長良川地区、金華山地区、鶺鴒屋地区、川原町地区、旧城下町地区

※選定区域の中で、文化的景観の価値をよく示すものを「重要な構成要素」という。岐阜市の文化的景観においては、長良川、金華山、道路、水路、建築物などを抽出している。

